

(社) 日本地すべり学会関東支部

2008 年 ニューズレター

1. (社) 日本地すべり学会関東支部総会・シンポジウム・意見交換会開催

平成 20 年 6 月 13 日、東京大学工学部武田先端知ホールにおいて、関東支部総会とシンポジウムが開催された。

総会は、(社) 日本地すべり学会関東支部平成 20 年度役員名簿、平成 20 年事業計画(案)、平成 20 年事業予算(案)の各議案が満場一致で承認され、総会は無事終了した。

関東支部シンポジウムは、当初「日本と中国における大規模地すべりの実態と対策」をテーマに中国成都理工大学の黄潤秋教授をお招きする予定でしたが、おりしも成都がある四川省で 5 月 12 日に大地震があり当日の講演が不可能となり急遽、下記の災害調査報告に変更した。本シンポジウムは大規模地すべりと地震というタイムリーな話題でもあり、多くの来場者を迎え盛大に開催された。以下にその概要をまとめて記す。

また、今回のシンポジウムは社団法人地盤工学会関東支部の後援も頂戴した。関係各位、多くの来場者に御礼を申し上げる。

■ シンポジウムテーマ：日本と中国における大規模地すべりの実態と対策

- (1) 群馬大学教授 鶴飼恵三、群馬大学助教 蔡飛、国土防災(株) 山田正雄
「四川省汶川大地震・地すべり災害調査結果」
- (2) 千葉大学名誉教授 古谷尊彦 「大規模な地すべり・崩壊の発生場に関する私見」

(1) 四川省汶川大地震・地すべり災害調査結果

2008 年 5 月 12 日に中国四川省汶川でマグニチュード 8.0 の巨大地震が発生した。地震断層沿いの都市部と山間部に壊滅的な被害をもたらし、死者行方不明者は 8 万人以上に達する。特に土砂崩壊等により生じた巨大な堰塞湖の下流域では 100 万人規模での避難も行われた。本報告は同 25 日、26 日に講演者らが中国側研究者の協力を得て実施した現地調査結果の報告である。これまで、報道されなかった土砂災害の状況も含めて、貴重な資料や生々しい現地写真による興味深い内容であり、都江堰市内の中学校倒壊、都江堰ダムの被災、道路斜面の落石・崩壊および他彭州市付近での大規模崩壊等を詳細に報告された。このような地震による土砂災害は、火災や家屋倒壊等の構造物被害の陰に隠れていたが、地震においても地すべりやがけ崩れ、堰止湖等の災害が多数発生していることがあらためて確認できた。今後の課題としては 1) 地すべり(広義)危険箇所把握と対策工計画 2) 堰塞湖の応急対策と監視 3) 住民の移住 4) 建物の耐震性 5) 活断層の把握と建物制限等が挙げられた。

(2) 大規模な地すべり・崩壊の発生場に関する2・3の私見

古谷尊彦千葉大学名誉教授は我が国を代表する地すべり研究者である。今回の講演は大規模地すべり・崩壊研究のエッセンスを凝縮したものであった。大規模地すべり・崩壊の定義と実態、地形・地質の発生場等について、国内外の具体例に基づき詳細かつわかりやすい説明をいただいた。その中で従来の破碎帯地すべりについては、地殻ひずみが蓄積された変動帯や上載荷重の開放等も含めた巨大地すべり・崩壊等の発生場としての見直しを提言された。更には山間地域での人との係わりも含めた災害対策のあり方等にも言及された。



写真 1-1 関東支部総会



写真 1-2 汶川大地震災害調査報告の講演



写真 1-3 古谷先生の講演

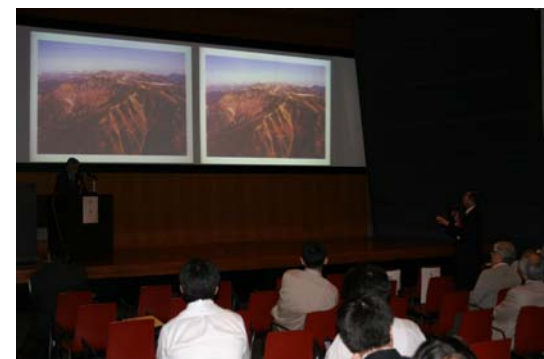


写真 1-4 講演後の質疑応答



写真 1-5 盛況な会場風景



写真 1-6 意見交換会会場

今回のシンポジウムは、大規模な地すべり発生場と地震による大規模な地すべり災害およびその対応課題についての報告であった。素因としての発生場と誘因としての地震がリンクした講演内容であり、ハザードのあるべき姿や対応方法について意見交換会においても活発な議論があった。また、翌日には岩手・宮城内陸地震が発生し、本シンポジウムの意義は極めて大きいものとなった。

2. 関東支部 平成 20 年度 現地検討会報告 「群馬県甘楽町の内久保地すべり」

平成 19 年 9 月に上陸した台風 9 号により群馬県甘楽町秋畑内久保では、全長約 440m、幅約 130m、すべり面深度約 10m に達する大規模な地すべりが発生した。昨年度は本地すべり発生直後に関東支部の現地検討会を実施し、地すべり機構、対策工のあり方等を議論した。本年度はボーリング結果、観測データも得られた段階で再度現地にて討論することを目的として再び内久保地すべりにおいて現地検討会を実施した。被災直後に想定した地すべり深度は正しかったのか、想定ブロック区分は妥当だったのか等を当時のデータと本年度のデータを各自が比較検討することにより、発生直後の調査観測方針、緊急対策工や恒久対策のあり方等の議論が深まった。更に現地での議論の続きは、群馬県富岡環境森林事務所に場所を移して、地すべり監視方法や現況の安定性や恒久対策等について活発な意見交換ができた。



写真 2-1 地すべり地全景



写真 2-2 頭部付近の路面段差滑落崖付近



写真 2-3 滑落崖付近の水抜き工



写真 2-4 地すべり滑落崖を望む



写真 2-5 側方崖と伸縮計



写真 2-6 側方崖から上方を望む



写真 2-7 現地での討論



写真 2-8 現地での討論



写真 2-9 意見交換会でのコア確認



写真 2-10 意見交換会の状況

本検討会を開催するに際してご尽力いただいた群馬県および現地の説明をしていただいたパシフィックコンサルタンツ株式会社の皆様に御礼を申し上げます。

3. 平成 21 年度関東支部シンポジウムのお知らせ

本年度の関東支部総会シンポジウムは、下記の様、「森林と斜面災害（仮）」をテーマに阿部和時日本大学教授と北原曜信州大学農学部教授による御講演を予定している。皆様奮って御参加下さい。

～平成 21 年度（社）日本地すべり学会関東支部総会・シンポジウム～

◆ 開催日時：平成 21 年 6 月 5 日（金）13：00～17：00

◆ 場 所：東京大学武田先端知ホール

◆ 内 容：13：00～14：00 （社）日本地すべり学会関東支部総会
14：00～17：00 シンポジウム

※詳細は、別途シンポジウムの御案内をいたしますので参照ください。

発行者：社団法人 日本地すべり学会関東支部（支部長：鵜飼恵三）
376-8515 群馬県桐生市天神町 1-5-1 群馬大学研究科社会環境デザイン工学専攻内
Tel：0277-30-1624（Fax 共有）
関東支部 Web ページ：<http://japan.landslide-soc.org/branch/kantou/>